

# 外国語活動における教師の英語使用に関する実態調査

山森直人 (YAMAMORI Naoto)

鳴門教育大学

## 要約

2008年の小学校学習指導要領改訂後の移行期間を経て、2011年4月から全国の小学校5、6年に外国語活動が必修化された。そのカリキュラムや指導法・教材等に関わる準備はその移行期に着実に進められてきた。しかし、いまだ課題も多く、特に外国語活動を担当する教員の研修・養成の充実は喫緊の課題である。このような状況を背景に、筆者は授業における教師の英語使用に焦点をあて、教室英語の分析枠組みの構築、及び、教室英語力を育成するためのプログラム開発を目的とした一連の継続的研究(山森, 2006, 2007a, 2007b)を行ってきた。特に本稿では小学校外国語活動における教師の教室英語力を育成する教員研修・教員養成プログラムの開発のための基礎資料を作成すべく実施した、外国語活動における英語使用に関する小学校教員の意識や現状の実態調査の結果を報告する。

(キーワード：外国語活動, 教室英語, クラスルーム・イングリッシュ)

## 1. 外国語活動と教師の英語使用

第2言語教師の目標言語に関する能力の重要性についてはこれまでも数多く指摘され、その能力の育成に関わるニーズ(教師の自信との関連)が高いにもかかわらず、教師教育においては指導理論とその実践および言語理論に焦点があてられ、十分に扱われてこなかった(Britten, 1985, p.234; Berry, 1990, p.98; Cullen, 1994, p.163; Murdoch, 1994, p.254; Lavender, 2002, p.237, etc.)。外国語活動に関しても、教師の英語力は早急に解決されなければならない課題として(e.g. Benesse 教育研究開発センター, 2011), 教員研修の一部としてみなされてきた(e.g. 文部科学省, 2009, p.16; 松川・直山, 2008, p.106, etc.)。しかし、外国語活動に求められる教師の英語使用に関わる知識や技能がさまざまな用語(「英語力」「英語運用能力」「クラスルーム・イングリッシュ」など)で表現されるように、研修の具体的な方向性や内容はいまだ定まっていないと想像される。つまり、外国語活動における教師の英語使用に求められる知識や技能、それらを育成するための研修の方向性や内容を検討する必要がある。ここでは特にそのための基礎資料を得るべく、外国語活動における教師の英語使用に関する意識と現状の実態を分析・考察する。

## 2. 調査

### 2.1. 調査目的

本調査の目的は、小学校の外国語（英語）活動における、教師の英語使用に関する意識や現状を把握することにある。

### 2.2 調査方法

本調査では小学校教員を対象に質問紙調査を実施した。以下にその詳細を記す。

#### (1)調査対象

本調査は徳島県内の小学校教員（英語講師や外国語（英語）活動の指導経験のない教員を含む）を対象とし、2011年2月中旬に同県内全小学校（214校）宛に依頼状、質問紙のサンプル、および調査協力の諾否と協力教員数を回答するための返信用葉書を送付した。承諾の返信があった学校には同年2月下旬から3月初旬にかけて協力教員数分の質問紙（余分を含む）と返信用封筒等を発送した。結果的に73校（回収率34%）から449名分の回答が回収され、最終的に439名分の回答を本調査の分析対象データとして扱った。回答者の教職年数および英語指導年数については次の通りである。

表1 教職年数

教職年数	5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 20年未満	20年以上 30年未満	30年以上	無回答	合計
度数(名)	70	28	80	204	48	9	439
割合(%)	16%	6%	18%	46%	11%	2%	100%

表2 英語指導年数

英語指導年数	0年	1-3年	4-6年	7-9年	10年以上	無回答	合計
度数(名)	151	159	64	21	15	29	439
割合(%)	34%	36%	15%	5%	3%	7%	100%

#### (2)調査項目

調査項目はFORCE (山森, 2007a, 2007b) にもとづき作成した。FORCE (Framework for Observing and Reflecting Classroom English) とは、教室英語の教育機能を体系的に整理し、教室英語の使用状況を観察・自省するための分析枠組みである(図1参照)。この枠組みには、近年の学校英語教育界および最近の第二言語習得研究の動向を踏まえて導き出された、教師の教室英語使用の2つの方向性、すなわち、(1) 児童・生徒が英語で表現・理解する意味内容を広め・深めるという方向性（意味内容重視の方向性）と、(2) 児童・生徒にインプットを与えたりアウトプットさせることを通して英語の言語構造（語彙や文法規則）に気づかせるという方向性（言語構造重視の方向性）を組み合わせることで現れる、教室英語使用の4つの基本的教育機能（「A: 正しい英語への気づきの促進」「B: 授業運営、授業の雰囲気づくり」「C: 英語の内容理解の促進」「D: 表現内容のふくらまし・構造との関連づけ」）を基盤に、教室英語の具体的な使用項目（例えば、「物事や現象について描写することができる」「児童・生徒の発話を再度述べることができる」など全24項目）が集約されている。FORCEはもともと2008年の学習指導要領改訂以前に、中学校・高等学校における英語科教育を含む学校英語教育全般に関わる教員の英語使用を視野に作成されたものである。本調査で使用したFORCEはShimokawa (2010) により小学校の実情に合わせて文

言等の修正が行われた小学校用FORCEに、新たな項目や具体例を加えるなど再修正を施したものである（付録1参照）。この修正版小学校用FORCEは上記4機能25項目から構成される。質問紙では、小学校5、6年生を対象とした外国語（英語）活動における、同25項目の教室英語使用の「必要性」「可能性」「現実」について、5件法（「⑤かなり必要（できる／使用している）」「④ある程度必要（できる／使用している）」



図1 教室英語の基本的教育機能

「③どちらとも言えない」「②あまり必要でない(できない／使用していない)」「①まったく必要でない(できない／使用していない)」により回答を求めた。特に「現実」については外国語活動の経験がない場合でも想定で回答するよう求めた。

### (3)分析手法

回収データについては、上記選択肢（⑤から①）ごとに点数（5点から1点）を与えて数量化し、Microsoft Excel 2010に入力した。Excel上でデータを整理後、データをPASW Statistics 18に読み取り、基本統計量やクロス集計等の分析処理を行った。本稿では、分析結果をもとに1)参加者全体の回答傾向、2)小学校における英語指導経験の有無に基づく回答傾向、3)外国語活動における立場や役割に基づく回答傾向、について考察を進める。

## 2.3 結果と考察

### (1)全体傾向

全体（439名）の回答結果（平均値と標準偏差）については、全25項目の平均値を付録2に提示している。ただし、項目数が多く実態が把握しにくいいため、教室英語使用の基本的教育機能（A, B, C, D）ごとにそれらの数値の平均値を算出し、表3に示した。

まず、すべての機能において「必要性」の数値が「可能性」「現実」よりも1.0程度高く、「可能性」と「現実」の数値は近似している。これは、教師は英語使用の必要性を感じていたとしても実際には求められる程度には使用できない、あるいは使用していない状況があることを示唆している。また、機能別にみると、特に機能Bの数値が高い。機能Bは、挨拶・指示や賞賛などいわゆる「クラスルーム・イングリッシュ」に代表される英語使用であるが、教員研修や指導書等においても頻繁に紹介されるものである。そのため、特に機能Bに対する教員の意識は高いのではないであろうか。一方、機能A, C, Dの数値は機能間で数値が近似している。具体的には「必要性」が3.9を示し、それは選択肢4（ある程度必要）に相当する値である。これに対し「可能性」「現実」については、それぞれ2.9-3.0と2.8-3.0であり、概ね選択肢3（どちらとも言えない）に相当する。これは、機能A, C, Dの英語使用について、教師はその必要性をある程度認識しているが、実際に使用できるかどうか、あるいは使用しているかどうかについて判断ができない状況にあることを示唆している。回答者全体の7割が英語指導の経験が十分でない状態（未経験者：34%(151名)、

1-3年程度の経験者:36%(159名))にあることを考慮すれば、同結果は自然なことと考えられるが、外国語活動における英語使用の具体的な方向性に関する知識や意識づけとともに、授業において実際に英語を使用する力の育成が求められる。

表3 全体の回答傾向および小学校英語指導経験の有無にもとづく回答傾向(平均値)

教室英語使用の基本的教育機能		全体 n=439	小学校英語指導 経験なし n=146	小学校英語指導経験あり	
				5,6年指導 経験なし n=56	5,6年指導 経験あり n=198
A: 正しい英語の構造 への気づきの促進 (5項目)	必要性	3.9	3.9	4.0	3.9
	可能性	2.9	2.6	2.9	3.1
	現実	3.0	2.7	3.0	3.1
B: 授業運営, 授業の雰囲気づくり (5項目)	必要性	4.2	4.1	4.2	4.2
	可能性	3.4	3.1	3.4	3.6
	現実	3.3	3.0	3.4	3.5
C: 英語の内容理解の 促進 (6項目)	必要性	3.9	3.8	3.9	3.9
	可能性	2.9	2.6	2.8	3.0
	現実	2.8	2.6	2.9	3.0
D: 表現内容のふくらまし, 構造との関係づけ (9項目)	必要性	3.9	3.9	4.0	3.9
	可能性	3.0	2.8	3.0	3.1
	現実	2.9	2.7	2.9	2.9

### (2)小学校英語指導の経験にもとづく回答傾向

次に、小学校における英語指導の経験、特に5,6年生に対する英語指導の経験(外国語活動を含む)をもつ回答者に焦点をあてる。それは5,6年生に対する英語指導経験があれば、5,6年対象の外国語活動における教師の英語使用について信念や価値観、また実際の英語使用経験にもとづく課題など何らかの意識を具体的にもっていると考えられるからである。表3の通り、5,6年生に対する英語指導経験がある回答者は全体の45%(198名)である(全25項目の結果については付録2を参照のこと)。

小学校における英語指導未経験者(146名)と5,6年の英語指導経験者の数値を比較すると、「必要性」については、全機能において未経験者が3.8-4.1、5,6年生対象の英語指導経験者が3.9-4.2であり近似している。これは経験の有無にかかわらず、英語使用の具体的なあり方はおおよそ共有されていることを示唆している。

これに対し、「可能性」と「現実」については4つの機能すべてにおいて5,6年生に対する英語指導経験者の方が高い数値を示している。その差は僅かながらも特に機能BおよびAにみられる。最も高い数値を示した機能Bについては、やはり教員研修や指導書等の影響で「教師の英語使用=クラスルーム・イングリッシュ」という意識が高く、その使用も経験者のあいだでは特に授業のなかで具現化しやすいのではないだろうか。また、機能Aの英語使用には児童のモデルとなるような正確な英語を駆使できる力が求められる。5,6年の英語指導経験者は、機能Aの英語使用に求められるレベルに達していなくても、未経験者に比べ、多少なりとも使用できるという感覚をつかんでいることを示唆している。

### (3)外国語活動における立場や役割に基づく回答傾向

さらに考察を深めるために、調査時に5,6年生対象の外国語活動を担当していた教員を抽出し、学級担任か英語専科教員かという視点(立場)、および、授業のなかで主体的役割と補助的役割のどちらを担当しているかという視点(役割)をもとに教員を分類し、その回答傾向を算出した(表4参照。なお全25項目の結果については付録3を参照のこと)。



表4 外国語活動を担当する学級担任および専科教員の回答傾向（平均値）

教室英語使用の基本的教育機能		学級担任			英語専科		
		主体的 役割	補助的 役割	合計	主体的 役割	補助的 役割	合計
		n=49	n=76	n=134	n=7	n=5	n=12
A: 正しい英語の構造 への気づきの促進	必要性	3.9	4.0	3.9	3.8	3.8	3.8
	可能性	3.3	3.0	3.1	4.0	3.4	3.7
	現実	3.4	3.0	3.2	3.5	3.8	3.6
B: 授業運営, 授業の雰囲気づくり	必要性	4.1	4.2	4.2	4.1	4.3	4.2
	可能性	3.6	3.5	3.5	4.2	4.2	4.2
	現実	3.6	3.4	3.5	4.0	4.1	4.0
C: 英語の内容理解の 促進	必要性	3.7	4.0	3.9	3.5	3.9	3.7
	可能性	3.1	2.9	3.0	3.5	3.7	3.6
	現実	3.1	2.8	2.9	3.0	3.7	3.3
D: 表現内容のふくらまし, 構造との関係づけ	必要性	3.8	3.9	3.9	3.7	4.2	3.9
	可能性	3.2	3.0	3.0	3.8	3.6	3.7
	現実	3.1	2.8	2.9	3.3	3.6	3.4

\*学級担任の合計には、「授業観察(3)」「現在、関わっていない(3)」「その他(3)」の計9名分も含まれる。

学級担任の場合、いずれの機能においても、補助的役割を果たす教員の方が必要性を若干ではあるが高く認識し、主体的役割を果たす教員の方が機能にもとづく英語使用ができる、使用していると認識していることがうかがえる。主体的役割を果たす学級担任は外国語活動を主導するなかで英語使用の技術を身につけていると考えられる。一方、補助的役割に徹する学級担任は、その主導者としての英語専科教員や外国人指導助手（以下、ALT）とのティームティーチングに関わることになる。その関わり方はさまざまであろうが、補助的役割を果たしながら、英語専科教員やALTの児童に対する英語使用を常に観察することになる。つまり、高いレベルの英語使用に触れることで英語使用のあり方に関する意識が高まるのではないだろうか。また、時には英語専科教員やALTとのモデル対話に参加し、児童に模範を示すことになる。それが自分自身の英語使用に対する不安や不十分さを感じる結果を招いていると解釈できないだろうか。そのように考えると、教師の教室英語力の育成には、学級担任の場合、主体的役割と補助的役割のどちらをも経験することが効果的であるということになる。

次に、英語専科教員（合計12名）の場合であるが、「必要性」の数値(3.7-4.2)は学級担任（合計）の数値(3.9-4.2)とほぼ同じであるが、「必要性」と「可能性」「現実」とのあいだの数値の開き(0.2-0.5)が学級担任の開き(0.7-1.0)よりも小さく、英語使用に関わる技能の高さの表れと推察できる。また、特に機能CとDにおいて「可能性」と「現実」の間に顕著な数値の開き(0.3)があることも英語専科教員の特徴と考えられる。機能C、Dのための英語使用の必要性をある程度感じ、そのような教室英語力をもってはいるが、何らかの理由で十分に使用していない状況があることを示唆している。

さらに、学級担任と英語専科教員の「必要性」の数値を詳細に分析すると、補助的役割の学級担任がD(3.9)-C(4.0)-A(4.0)-B(4.2)、主体的役割の学級担任がC(3.7)-D(3.8)-A(3.9)-B(4.1)、英語専科教員がC(3.7)-A(3.8)-D(3.9)-B(4.2)であり、僅かではあるが機能間の数値の開き(0.3, 0.4, 0.5)とばらつき具合が3者間で異なる実態がうかがえる。英語指導経験の質的違いが、機能間の重みづけに関わる意識の違いをもたらしたと考えられないだろうか。

### 3. 総合考察

以上、小学校教員に対して実施した質問紙調査の結果を報告した。その要点は次の通りである。

- ① 教師は、特に機能 B（授業運営や雰囲気づくり）に関わる英語使用の必要性を相対的に高く意識しているが、その他機能についてもある程度必要性を認識している。しかし、実際にそれらの英語使用をできるかどうか、あるいは実際に使用しているかどうかについては経験的にも判断が困難な状況にあると推察される。
- ② 小学校における英語指導経験の有無にかかわらず、英語使用の具体的な方向性はおよそ共有されている。一方、5、6年の英語指導経験者は小学校英語指導未経験者に比べ、相対的に全4機能に関わる英語使用ができる、実際に使用していると認識している。特にその傾向は機能 B（授業運営や雰囲気づくり）と機能 A（正しい英語の構造への気づきの促進）に関わる英語使用に見られる。
- ③ 外国語活動において主体的役割を果たす学級担任よりも補助的役割を果たす学級担任の方が英語使用の必要性を若干高く意識し、補助的役割を果たす学級担任よりも主体的役割を果たす学級担任の方が英語を使用できる、使用していると認識している。
- ④ 英語専科教員は、学級担任と同様の英語使用の必要性を感じているが、学級担任よりもそのような英語使用を実際にできる、あるいは実際に使用していると認識している。また、必要性を感じている英語使用ができて、実際には使用していない状況がある。
- ⑤ 英語指導の立場や役割による経験の違いが、英語使用の4つの機能の重みづけに対する教師の意識の違いをもたらしている可能性がある。

以上の結果を総合的に考察すると、外国語活動における教師の英語使用の方向性については教師間である程度共有されているが、実際の英語使用については今後その能力を高めていく必要性が示唆される。また、英語指導経験の有無や外国語活動における立場や役割にもとづき、英語使用に関する意識や現状が異なっている実態をふまえると、教室英語力の育成のあり方も個々の教員の経験や状況に応じて考慮する必要がある。ただし、今回の調査に使用した小学校外国語（英語）活動用 FORCE はもともと学校英語教育全般における教師の英語使用を意識して構築された枠組みを基盤としているため、外国語活動を実施するのに適した英語使用を表しているとは必ずしも言えない。「必要性」の全体的な数値が4点前後にとどまること（つまり「とても必要」ではなく「ある程度必要」ととどまっていること）がそれを裏づけているのかもしれない。つまり、教師の教室英語力の育成方法に加え、外国語活動に適した英語使用の方向性についても検討していく必要がある。

### 4. さいごに

本稿では、小学校外国語活動に求められる教師の教室英語力を育成する教員研修・教員養成プログラムの開発のための基礎資料を作成すべく、外国語活動における教師の英語使用に関する小学校教員の意識や現状の実態調査の結果を報告した。報告内容にもとづけば、

今後、特に教師教育の立場から求められることは、やはり英語使用について教師が感じている必要性の内実を FORCE の枠組みを越えてさらに明らかにしていくと同時に、本調査から浮かび上がった、英語使用の必要性と可能性・現実とのあいだの距離を縮める方策を具体的に検討していくことである。本稿は調査結果の概要を報告するにとどまったが、そのためにもさらに詳細なデータ分析が求められる。

## 謝辞

ご協力いただいた徳島県小学校の先生方にこの場を借りて心より深く感謝申し上げます。また、本調査における質問紙の発送作業やデータ入力・確認作業に協力してくれた鳴門教育大学大学院・言語系コース（英語）の福田佳代氏と吉田佑樹氏に感謝の意を表す。

## 引用文献

- Benesse 教育研究開発センター (2011) 『第2回 小学校英語に関する基本調査(教員調査)』  
東京: ベネッセコーポレーション. ([http://benesse.jp/berd/center/open/report/syo\\_eigo/2010/index.html](http://benesse.jp/berd/center/open/report/syo_eigo/2010/index.html))
- Berry, R. (1990). The role of language improvement in in-service teacher training: Killing two birds with one stone. *System*, 18(1), pp. 97-105.
- Britten, D. (1985). Teacher training in ELT Part II. *Language Teaching*, 18(3), 220-238.
- Cullen, R. (1994). Incorporating a language improvement component in teacher training programmes. *ELT Journal*, 48(2), pp.162-172.
- Lavender, S. (2002). Towards a framework for language improvement within short in-service teacher development programmes. In Trappes-Lomax, H. & Ferguson, G. eds. *Language in language teacher education* (pp.199-217). Amsterdam/ Philadelphia: John Benjamins Publishing Company.
- 松川禮子(監修)・直山木綿子(著) (2008) 『ゼロから創る小学校英語』東京: 文溪堂.
- 文部科学省 (2009) 『小学校外国語活動研修ガイドブック』東京: 旺文社.
- Murdoch, G. (1994). Language development provision in teacher training curricula. *ELT Journal*, 48(3), pp.253-265.
- Shimokawa, R. (2010). A study of elementary school teachers' use of classroom English for English activities. 鳴門教育大学大学院学校教育研究科言語系コース（英語）修士論文.
- 山森直人 (2006) 「英語教師に求められる英語力の概念枠組みの構築」『鳴門英語研究』19, 145-167.
- 山森直人 (2007a) 「英語教師が授業で用いる英語の教育的機能—教室英語の分析枠組み (FORCE)の構想の試み—」『鳴門教育大学研究紀要』 22, 161-174. (CD-ROM 版)
- 山森直人 (2007b) 「教室英語の分析枠組み(FORCE)の有効性の検証—英語科教育実習生の事例分析を通じて—」『大学英語教育学会中国・四国支部研究紀要』 4, 37-53.

\*本研究は科学研究費補助金(基盤研究(C), 課題番号 22520567)の助成を受けたものである。

付録1 小学校外国語(英語)活動用・教室英語使用の分析枠組み(FORCE)(2011年改訂版)

基本的 教育機能	番号	教室英語
A 正しい英語 の構造への 気づきの促 進	1	英語表現や単語の発音練習のための模範を示すことができる
	2	英語表現の反復練習のためのキューを示すことができる
	3	会話やロールプレイ等の模範を示すことができる
	4	事物・物事や出来事について描写することができる
	5	児童に気づいてほしい言語的特徴を声を大きくしたり、強勢をおくことで強調することができる
B 授業運営, 授業の雰囲気 づくり	6	授業進行上の確認などを行うことができる (例. Are you ready? Do you understand? OK?)
	7	始業・終業時の挨拶, 天候や日付・曜日, 出席の確認等ができる
	8	授業の目標や展開, コミュニケーション活動に関する教師の意図や説明など, 授業内容について伝えることができる
	9	授業運営上の指示や命令を与えることができる
C 英語の内容 理解の促進	11	教材(英語ノート, 絵本, 絵カード等)に直接的, 明示的に示されている内容を児童に確認させる発問を行うことができる
	12	教材(英語ノート, 絵本, 絵カード等)に間接的, 暗示的に示されている内容を児童に推測させる発問を行うことができる
	13	教材(英語ノート, 絵本, 絵カード等)の内容に関する児童の個人的な印象を問う発問を行うことができる
	14	必要と思われる内容を同じ表現で繰り返して児童の理解を促すことができる
	15	具体的な例を挙げながら児童の理解を促すことができる
	16	同じ内容を表現を換えながら話して児童の理解を促すことができる
D 表現内容の ふくらまし, 構造との関 係づけ	17	相づち(Uh-huh. Yes. Oh, are you?)や簡単な応答(That's great. Really?)などの手段で児童の発話を促すことができる
	18	児童の日常生活, 興味・関心, 知識, 考えや思いなどについて発問を行うことができる(例. What color do you like?)
	19	児童の発話に対し続けて発問を行うことができる (例. 児童:I like blue. 教師:Why do you like blue?)
	20	児童から発話が出てこない場合に発話の始まりやヒントを与えること(例えば, 発音やストレスで気づかせること)ができる(例. 教師:I like... 児童:I like oranges.)
	21	児童の不明瞭な発話を確認することができる (例. Pardon? Could you say it again?)
	22	児童の発話を再度述べることができる (例. 児童: I can play the piano. 教師: Oh, you can play the piano.)
	23	児童の日本語発話を英語に換えて返すことができる。 (例. 児童: テニスが好き。 教師: Oh, you like tennis.)
	24	児童の発話の誤りを修正して返すことができる (例. 児童: I come school at eight. 教師: Oh, you come to school at eight.)
	25	児童が話そうとしている内容を, 未習・既習の語や表現を用いて代弁したり, 広げたりすることができる(例. 児童: Soccer. 教師: Oh, you play soccer every day.)



付録2 基本統計量とクロス集計（全体および英語指導経験の有無）の結果

番号		全体			小学校英語指導経験なし			小学校英語指導経験あり					
		N	M	SD	N	M	SD	5,6年指導経験なし			5,6年指導経験あり		
								N	M	SD	N	M	SD
1	必要性	438	4.0	0.7	146	3.9	0.7	56	4.1	0.5	198	3.9	0.7
	可能性	439	2.8	0.9	146	2.6	0.9	56	2.7	0.9	198	2.9	0.9
	現実	436	3.0	1.0	145	2.7	0.9	55	3.2	0.8	197	3.2	1.0
2	必要性	421	3.9	0.7	142	3.8	0.7	54	4.0	0.5	187	3.9	0.7
	可能性	423	3.0	0.9	143	2.7	0.8	54	3.0	0.8	188	3.2	0.9
	現実	420	3.1	0.9	143	2.8	0.9	52	3.1	0.8	187	3.2	0.9
3	必要性	439	4.2	0.6	146	4.1	0.6	56	4.2	0.5	198	4.2	0.6
	可能性	439	3.0	1.0	146	2.7	0.9	56	3.1	0.9	198	3.3	1.0
	現実	436	3.1	1.0	145	2.8	0.9	55	3.3	0.9	197	3.4	0.9
4	必要性	438	3.5	0.8	145	3.6	0.8	56	3.5	0.8	198	3.4	0.8
	可能性	438	2.6	0.9	145	2.4	0.9	56	2.6	0.8	198	2.8	0.9
	現実	435	2.6	0.9	145	2.5	0.9	55	2.6	0.9	196	2.7	0.9
5	必要性	438	4.0	0.8	146	4.0	0.7	56	4.0	0.6	197	4.0	0.8
	可能性	437	3.1	1.0	146	2.9	1.0	55	3.1	0.9	197	3.2	0.9
	現実	434	3.1	1.0	145	2.8	1.1	55	3.1	0.9	195	3.2	0.9
6	必要性	439	4.2	0.6	146	4.1	0.6	56	4.3	0.5	198	4.2	0.7
	可能性	439	3.6	0.9	146	3.3	1.0	56	3.6	0.8	198	3.8	0.8
	現実	435	3.4	1.0	145	3.1	1.1	55	3.5	0.9	196	3.7	0.8
7	必要性	437	4.3	0.6	146	4.3	0.6	56	4.3	0.5	196	4.3	0.7
	可能性	439	3.7	0.9	146	3.5	0.9	56	3.7	0.7	198	3.8	0.8
	現実	434	3.5	0.9	144	3.3	1.0	55	3.6	0.9	196	3.7	0.9
8	必要性	439	3.8	0.9	146	3.7	0.8	56	3.7	0.9	198	3.8	1.0
	可能性	438	2.8	0.9	146	2.6	0.9	56	2.7	0.8	197	3.0	0.9
	現実	433	2.7	1.0	145	2.5	0.9	55	2.7	0.9	194	2.9	1.0
9	必要性	438	4.1	0.7	146	4.0	0.8	56	4.1	0.5	197	4.1	0.7
	可能性	436	3.2	0.9	144	2.8	0.9	56	3.2	0.8	197	3.4	0.9
	現実	431	3.1	0.9	143	2.7	0.9	55	3.3	0.8	195	3.3	0.9
10	必要性	439	4.6	0.5	146	4.6	0.5	56	4.6	0.5	198	4.6	0.6
	可能性	438	3.8	0.9	146	3.6	0.9	56	3.9	0.7	197	3.9	0.8
	現実	432	3.7	1.0	144	3.4	1.0	55	3.9	0.9	195	3.9	0.8
11	必要性	434	4.0	0.7	145	4.0	0.7	55	4.1	0.6	195	4.1	0.7
	可能性	434	3.1	0.9	146	2.8	1.0	55	3.2	0.8	194	3.2	0.9
	現実	431	3.0	1.0	145	2.7	1.0	53	3.2	0.9	194	3.2	0.9
12	必要性	435	3.8	0.8	144	3.8	0.8	56	3.8	0.6	196	3.7	0.9
	可能性	435	2.8	0.9	144	2.6	0.9	56	2.6	0.7	196	2.9	0.9
	現実	431	2.7	0.9	143	2.5	0.9	54	2.6	0.8	195	2.8	0.9
13	必要性	438	3.6	0.8	146	3.6	0.8	56	3.6	0.8	197	3.6	0.9
	可能性	437	2.7	0.9	146	2.5	0.9	56	2.6	0.8	196	2.8	0.9
	現実	433	2.6	0.9	145	2.5	0.9	54	2.6	0.8	195	2.7	0.9
14	必要性	437	4.1	0.7	146	4.0	0.7	56	4.1	0.6	197	4.2	0.7
	可能性	437	3.3	1.0	146	2.9	1.0	56	3.3	0.9	196	3.5	0.9
	現実	433	3.2	1.0	145	2.8	1.0	54	3.2	0.9	195	3.4	0.9
15	必要性	439	4.0	0.7	146	4.0	0.8	56	4.0	0.6	198	4.0	0.7
	可能性	437	2.9	1.0	145	2.6	0.9	56	2.8	0.8	197	3.0	1.0
	現実	431	2.9	1.0	145	2.6	1.0	53	2.9	0.9	196	3.0	0.9
16	必要性	438	3.7	0.8	145	3.7	0.8	56	3.7	0.7	198	3.7	0.9
	可能性	437	2.6	0.9	145	2.4	0.8	56	2.5	0.7	197	2.8	0.9
	現実	433	2.6	0.9	145	2.4	0.9	54	2.7	0.8	196	2.7	0.9
17	必要性	438	4.1	0.7	145	4.1	0.7	56	4.2	0.6	198	4.1	0.7
	可能性	438	3.2	1.0	146	3.0	1.0	56	3.4	0.9	197	3.2	1.0
	現実	433	3.1	1.0	145	2.8	0.9	54	3.3	1.0	196	3.2	1.0
18	必要性	439	4.1	0.7	146	4.1	0.7	56	4.1	0.6	198	4.0	0.7
	可能性	437	3.2	0.9	146	2.9	1.0	56	3.3	0.8	196	3.3	1.0
	現実	432	3.1	1.0	145	2.9	1.0	54	3.2	0.9	195	3.1	1.0
19	必要性	438	3.9	0.7	145	4.0	0.6	56	3.9	0.6	198	3.9	0.7
	可能性	439	3.0	0.9	146	2.8	0.9	56	2.9	0.8	198	3.1	0.9
	現実	436	2.8	1.0	145	2.6	1.0	55	2.8	0.9	197	2.9	1.0
20	必要性	437	4.2	0.6	145	4.1	0.6	56	4.2	0.5	197	4.2	0.6
	可能性	438	3.2	1.0	145	2.9	1.0	56	3.3	0.9	198	3.4	0.9
	現実	434	3.2	1.1	144	2.8	1.1	55	3.2	1.0	196	3.4	1.0
21	必要性	437	3.6	0.8	145	3.7	0.8	56	3.7	0.7	197	3.6	0.9
	可能性	438	2.8	0.9	145	2.6	0.9	56	2.8	0.8	198	2.9	1.0
	現実	432	2.7	0.9	142	2.6	0.9	55	2.7	0.9	196	2.7	0.9
22	必要性	439	4.0	0.7	146	4.0	0.6	56	4.0	0.6	198	4.0	0.8
	可能性	436	3.2	0.9	143	3.0	0.9	56	3.3	0.8	198	3.3	0.9
	現実	434	3.0	1.0	142	2.9	1.0	56	3.1	0.9	197	3.1	1.0
23	必要性	439	4.0	0.7	146	3.9	0.8	56	4.1	0.6	198	4.0	0.7
	可能性	437	3.0	1.0	145	2.7	1.0	55	3.0	0.8	198	3.2	1.0
	現実	435	2.9	1.0	144	2.7	1.0	55	3.0	1.0	197	3.0	1.0
24	必要性	439	3.6	0.9	146	3.7	0.8	56	3.6	0.9	198	3.5	1.0
	可能性	437	2.6	0.9	145	2.4	0.9	56	2.4	0.8	197	2.7	1.0
	現実	435	2.5	0.9	144	2.4	0.9	56	2.4	0.9	196	2.5	1.0
25	必要性	437	3.7	0.8	145	3.7	0.8	56	3.9	0.8	198	3.7	0.9
	可能性	435	2.6	1.0	144	2.4	0.9	55	2.5	0.8	198	2.7	1.0
	現実	433	2.5	1.0	143	2.4	0.9	55	2.5	1.0	197	2.5	1.0

付録3 クロス集計（外国語担当時の立場と役割）の結果

番号		学級担任									英語専科								
		主体的役割			補助的役割			合計			主体的役割			補助的役割			合計		
		N	M	SD	N	M	SD	N	M	SD	N	M	SD	N	M	SD	N	M	SD
1	必要性	48	3.9	0.8	76	4.0	0.7	133	3.9	0.8	7	3.6	0.8	5	4.0	0.7	12	3.8	0.8
	可能性	49	3.1	0.9	76	2.8	0.8	134	2.9	0.9	7	4.0	0.6	5	3.4	1.3	12	3.8	1.0
	現実	49	3.4	0.9	76	3.1	0.9	134	3.2	0.9	7	3.6	1.3	5	3.8	0.8	12	3.7	1.1
2	必要性	47	3.9	0.7	72	4.0	0.6	128	3.9	0.6	7	3.7	0.8	4	3.8	0.5	11	3.7	0.6
	可能性	47	3.5	0.9	72	3.0	0.8	128	3.1	0.9	7	4.3	0.5	5	3.6	1.1	12	4.0	0.9
	現実	47	3.6	0.8	72	3.1	0.9	128	3.2	0.9	7	4.0	0.6	5	3.8	0.8	12	3.9	0.7
3	必要性	49	4.2	0.7	76	4.2	0.6	134	4.2	0.7	7	4.4	0.5	5	3.8	0.4	12	4.2	0.6
	可能性	49	3.5	0.9	76	3.2	1.0	134	3.3	0.9	7	4.3	0.5	5	3.6	1.1	12	4.0	0.9
	現実	49	3.7	0.7	76	3.3	0.9	134	3.4	0.8	7	4.1	0.4	5	3.8	0.8	12	4.0	0.6
4	必要性	49	3.6	0.8	76	3.6	0.6	134	3.5	0.7	7	3.4	1.1	5	3.4	0.5	12	3.4	0.9
	可能性	49	3.1	0.9	76	2.7	0.8	134	2.8	0.8	7	3.4	0.8	5	2.8	1.3	12	3.2	1.0
	現実	49	3.0	0.9	76	2.6	0.8	134	2.8	0.8	7	2.7	1.0	5	3.4	1.1	12	3.0	1.0
5	必要性	49	3.9	0.9	75	4.1	0.7	133	4.0	0.8	7	4.0	0.6	5	4.2	0.4	12	4.1	0.5
	可能性	49	3.3	0.9	75	3.3	0.8	133	3.3	0.8	7	3.9	0.7	5	3.4	1.3	12	3.7	1.0
	現実	49	3.3	1.0	74	3.1	0.8	132	3.2	0.9	7	3.3	0.8	5	4.0	0.7	12	3.6	0.8
6	必要性	49	4.2	0.7	76	4.3	0.7	134	4.2	0.7	7	4.6	0.5	5	4.6	0.5	12	4.6	0.5
	可能性	49	3.9	0.7	76	3.7	0.8	134	3.8	0.8	7	4.7	0.5	5	4.4	0.5	12	4.6	0.5
	現実	49	3.9	0.8	75	3.5	0.9	133	3.6	0.8	7	4.7	0.5	5	4.4	0.5	12	4.6	0.5
7	必要性	49	4.1	0.8	75	4.2	0.7	133	4.2	0.7	7	4.1	0.7	5	4.0	1.2	12	4.1	0.9
	可能性	49	3.8	0.8	76	3.7	0.8	134	3.7	0.8	7	4.7	0.5	5	4.4	0.5	12	4.6	0.5
	現実	49	3.8	0.9	75	3.6	0.8	133	3.7	0.9	7	4.3	1.1	5	4.2	0.4	12	4.3	0.9
8	必要性	49	3.6	1.0	76	4.0	0.8	134	3.8	0.9	7	2.7	1.1	5	3.6	1.1	12	3.1	1.2
	可能性	49	2.9	0.9	75	3.0	0.9	133	2.9	0.9	7	3.1	0.9	5	3.8	0.8	12	3.4	0.9
	現実	49	2.9	1.1	73	2.9	1.0	131	2.9	1.0	7	2.6	1.0	5	3.8	0.4	12	3.1	1.0
9	必要性	49	4.1	0.7	75	4.1	0.7	133	4.1	0.7	7	4.1	0.4	5	4.4	0.9	12	4.3	0.6
	可能性	49	3.4	0.7	75	3.2	0.9	133	3.3	0.8	7	3.9	0.9	5	4.2	0.4	12	4.0	0.7
	現実	49	3.5	0.7	74	3.1	0.9	132	3.3	0.8	7	3.9	0.9	5	3.8	0.4	12	3.8	0.7
10	必要性	49	4.5	0.5	76	4.6	0.5	134	4.6	0.6	7	4.9	0.4	5	5.0	0.0	12	4.9	0.3
	可能性	49	4.0	0.7	75	3.8	0.8	133	3.9	0.8	7	4.4	0.5	5	4.4	0.5	12	4.4	0.5
	現実	49	4.1	0.7	75	3.8	0.9	133	3.9	0.8	7	4.4	0.5	5	4.4	0.5	12	4.4	0.5
11	必要性	49	3.8	0.8	75	4.2	0.6	133	4.0	0.7	7	3.1	1.2	5	4.0	0.7	12	3.5	1.1
	可能性	49	3.2	0.7	75	3.2	0.9	133	3.2	0.8	7	3.4	0.8	5	3.8	1.1	12	3.6	0.9
	現実	49	3.3	0.8	75	3.1	0.9	133	3.2	0.9	7	3.0	1.2	5	3.8	0.4	12	3.3	1.0
12	必要性	49	3.5	0.9	75	3.9	0.7	133	3.7	0.8	7	2.9	1.2	5	3.8	0.8	12	3.3	1.1
	可能性	49	2.9	0.8	75	2.8	0.9	133	2.8	0.8	7	3.0	1.2	5	3.8	1.1	12	3.3	1.2
	現実	49	2.9	0.8	75	2.7	0.8	133	2.8	0.8	7	2.6	1.3	5	3.4	0.9	12	2.9	1.2
13	必要性	49	3.3	0.9	76	3.7	0.7	134	3.6	0.8	7	3.3	1.4	5	3.8	0.8	12	3.5	1.2
	可能性	49	2.7	0.8	75	2.6	0.7	133	2.7	0.8	7	3.4	0.8	5	3.6	1.1	12	3.5	0.9
	現実	49	2.7	0.9	75	2.6	0.7	133	2.6	0.8	7	2.9	1.1	5	3.4	0.9	12	3.1	1.0
14	必要性	49	4.1	0.7	75	4.3	0.6	133	4.2	0.7	7	4.0	1.0	5	4.2	0.8	12	4.1	0.9
	可能性	49	3.7	0.7	75	3.4	0.9	133	3.5	0.8	7	4.0	0.0	5	4.2	0.4	12	4.1	0.3
	現実	49	3.6	0.8	75	3.3	0.9	133	3.4	0.9	7	3.7	1.0	5	4.2	0.4	12	3.9	0.8
15	必要性	49	3.9	0.7	76	4.1	0.7	134	4.0	0.7	7	4.1	0.7	5	4.0	0.7	12	4.1	0.7
	可能性	49	3.3	0.7	75	2.9	0.9	133	3.0	0.9	7	3.7	0.8	5	3.4	1.1	12	3.6	0.9
	現実	49	3.3	0.7	75	2.8	0.9	133	3.0	0.9	6	3.2	0.4	5	3.6	0.5	11	3.4	0.5
16	必要性	49	3.6	1.0	76	3.9	0.8	134	3.8	0.9	7	3.4	1.4	5	3.8	0.4	12	3.6	1.1
	可能性	49	3.0	0.9	75	2.7	1.0	133	2.8	0.9	7	3.3	0.8	5	3.6	1.1	12	3.4	0.9
	現実	49	2.9	0.9	75	2.6	0.9	133	2.7	0.9	7	2.6	0.8	5	3.6	1.1	12	3.0	1.0
17	必要性	49	4.1	0.7	76	4.1	0.6	134	4.1	0.7	7	4.0	0.8	5	4.6	0.5	12	4.3	0.8
	可能性	49	3.2	0.9	75	3.1	1.0	133	3.2	0.9	7	3.9	0.7	5	4.0	0.7	12	3.9	0.7
	現実	49	3.3	0.9	75	3.0	1.0	133	3.1	1.0	7	3.3	0.8	5	4.2	0.4	12	3.7	0.8
18	必要性	49	4.0	0.7	76	4.1	0.6	134	4.0	0.7	7	4.0	1.0	5	4.6	0.5	12	4.3	0.9
	可能性	49	3.4	0.8	75	3.2	1.0	133	3.3	0.9	7	4.0	0.8	5	3.8	1.1	12	3.9	0.9
	現実	49	3.4	0.8	75	3.0	1.0	133	3.2	1.0	7	3.9	1.1	5	3.8	1.1	12	3.8	1.0
19	必要性	49	3.8	0.7	76	3.9	0.7	134	3.9	0.7	7	3.6	1.0	5	4.2	0.8	12	3.8	0.9
	可能性	49	3.2	0.8	76	3.0	0.9	134	3.1	0.8	7	3.9	0.7	5	3.8	1.1	12	3.8	0.8
	現実	49	3.1	0.9	76	2.7	0.9	134	2.8	0.9	7	3.1	0.9	5	3.6	0.9	12	3.3	0.9
20	必要性	48	4.2	0.7	76	4.2	0.6	133	4.1	0.6	7	4.1	0.4	5	4.6	0.5	12	4.3	0.5
	可能性	49	3.6	0.8	76	3.3	0.9	134	3.4	0.9	7	3.9	0.7	5	3.8	1.1	12	3.8	0.8
	現実	48	3.6	0.9	76	3.2	1.1	133	3.3	1.0	7	3.9	0.9	5	3.8	1.1	12	3.8	0.9
21	必要性	48	3.4	1.0	76	3.6	0.7	133	3.5	0.8	7	3.6	0.8	5	4.2	0.4	12	3.8	0.7
	可能性	49	2.9	0.9	76	2.7	0.9	134	2.8	0.9	7	3.9	0.7	5	3.4	1.1	12	3.7	0.9
	現実	48	2.7	0.9	76	2.4	0.8	133	2.5	0.9	7	3.6	0.5	5	3.4	1.1	12	3.5	0.8
22	必要性	49	3.9	0.8	76	4.0	0.7	134	3.9	0.8	7	3.7	0.5	5	4.2	0.4	12	3.9	0.5
	可能性	49	3.4	0.9	76	3.2	0.9	134	3.3	0.9	7	3.9	0.7	5	3.8	1.1	12	3.8	0.8
	現実	49	3.2	0.9	76	3.0	0.9	134	3.1	0.9	7	3.1	0.9	5	3.8	1.1	12	3.4	1.0
23	必要性	49	3.9	0.7	76	4.0	0.6	134	4.0	0.7	7	3.7	1.0	5	4.0	0.7	12	3.8	0.8
	可能性	49	3.3	0.8	76	3.2	0.9	134	3.2	0.9	7	3.9	0.7	5	3.8	1.1	12	3.8	0.8
	現実	49	3.2	0.8	76	2.9	1.0	134	3.0	0.9	7	3.4	1.1	5	3.8	1.1	12	3.6	1.1
24	必要性	49	3.4	1.0	76	3.7	0.9	134	3.6	1.0	7	2.9	1.3	5	3.8	0.8	12	3.3	1.2
	可能性	49	2.8	1.0	75	2.6	0.9	133	2.6	0.9	7	3.3	1.0	5	3.2	1.3	12	3.3	1.1
	現実	49	2.7	1.0	75	2.4	0.9	133	2.5	1.0	7	2.6	1.0	5	2.8	0.8	12	2.7	0.9
25	必要性	49	3.7	0.8	76	3.7	0.8	134	3.7	0.8	7	3.3	1.5	5	3.8	0.8	12	3.5	1.2
	可能性	49	2.8	0.9	76	2.6	0.8	134	2.7	0.9	7	3.6	1.0	5	3.2	1.3	12	3.4	1.1
	現実	49	2.7	0.9	76	2.5	0.9	134	2.5	0.9	7	2.7	1.4	5	3.2	1.3	12	2.9	1.3

\*役割について「主体的役割」と「補助的役割」の両方が選択された場合(12名分)は「主体的役割」としてカウントした。